

はじまるヨ! 小中一貫教育ニュース

志木市教育委員会
学校教育課
第 8 号
令和5年11月13日発行

小学校における教科担任制によって 広がる視野 育む社会性

近年、全国的に小学校段階から中学校と同様に1つの教科をその教科専任の教員が指導する教科担任制を導入する事例が増えています。教科担任制を導入することで、学級担任を通じて学級の一体感を醸成することができなくなるなど学級担任制のメリットがなくなるのではないかといった心配の声をいただくことがあります。

現在の学習指導要領では、従来の8教科に加えて、「外国語」「特別の教科 道徳」が加わり、その他にも、人権教育をはじめ、プログラミング学習や情報モラル教育、環境教育・SDGs、主権者教育、生命(いのち)を守る教育等の教科・領域等以外の全ての学習にまたがるような学習機会が設けられています。

小学生の学習も年々専門的で現代的な課題が設けられており、教員の教材研究の幅も広がってきていることから、教材研究の深まりと同時に教員の負担軽減の面からも小学校における教科担任制の導入が求められています。また、小・中学校どちらの段階においても学級担任との一体感も重要ではあるものの、特に小学校の段階から子どもたちが多くの教員と出会うことによって、人間的な幅を学ぶ機会や多様性を尊重する機会となります。さらに、様々な教科の教員との交流で、子どもたちの視野も広がり、自分の学級だけの一体感ではなく、自分たちの学年や学校、学園という意識の広がりこそが、子どもたちの社会性をさらに育むことができると考えています。

小中一貫教育を意識した授業の確立のために・・

令和5年10月30日に志木中学校を会場に志木市教育委員会による学校訪問が行われました。先生方が授業を公開し、その後、先生方は3つのグループに分かれて、授業改善について協議しました。

「小中一貫教育を意識した授業の確立」をテーマにしたグループでは「若手からベテランの先生までどんなことを意識しているのか」「2つの小学校と、どのように連携することが必要か」等の意見交換が活発になされました。

意見交換の中では、「小学校でどのような内容に取り組んでいるのかを意識しながら授業をすることの大切さ」「小学校側の理科の先生と密な打合せをする機会を確保することの難しさ」等が語られました。

また、長年、志木市の小中一貫教育を実践している音楽の鈴木教諭からは小中一貫教育によって、これまで以上に小学校で指導すべきこと、中学校で指導すべきことをそれぞれの教員が共有することで、中学校3年生の姿を想像しながら1時間1時間の授業をより良いものにでき、結果として子供たちを変容させることができるという話がありました。熱心な協議によって、小中の教員それぞれができることは何かを研究する充実した時間となりました。



小学生の頃から教えてもらっている猪瀬栄養教諭と家庭科の市川教諭によるチーム・ティーチング

【お問い合わせ先】志木市教育委員会学校教育課・教育改革グループ

本ニュースや小中一貫教育について、御意見や質問等がございましたら御連絡ください。

小中一貫教育に関するHP <https://www.city.shiki.lg.jp/site/syotyuikkan/>
URLが変わりました。「お気に入り」設定の変更をお願いします。

☎048-456-5367 E-mail g-kyouiku@city.shiki.lg.jp

